

[附属練習船勢水丸]

令和4年度 附属練習船勢水丸業務報告

前川 陽一・中村 亨

附属練習船勢水丸船長・一等航海士

1. 令和4年度附属練習船勢水丸運航概要

令和4年度は、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症拡大防止に伴い、前年に引き続き様々な制限のもとに運航計画を策定し、感染防止対策を徹底しながら航海を実施した。宿泊を伴う航海では乗船者を個室対応とする制限のなか、教育航海では航海日数を例年より短くし、回数を増やすなどの対策をした。また、宿泊を伴わない場合は、定員の半数まで乗船可能として、日帰りの航海を続けて実施するなど、履修申告者全員の乗船を確保した。結果的に、教育航海34航海、研究航海6航海、その他の航海2航海の合計42航海、計154日の航海を実施した（停泊状態で実施したフィールドサイエンスセンター体験演習は除く）。

教育航海は278名、研究航海では45名が乗船した（すべての乗船人数について海事教員は除く）。松阪港停泊中に1年生全員が見学するフィールドサイエンスセンター体験演習については、昨年はガイダンスも含めて、生物資源活動タイムを利用してZoomによるオンラインで実施したが今年度は対面で実施した。また、全学を対象にした教育航海（環境科学～海に親しむ～）については、宿泊を伴う航海実習を予定していたが、台風の接近に伴い、昨年同様に3日間にわたりオンラインで実施した。

教育航海の中での教育関係共同利用拠点事業は、3期目3年目に突入した。感染防止対策を徹底しながら実習を受け入れ、単独航海では名古屋大学大学院環境学研究科、京都大学総合人

間学部、四日市大学環境情報学部、京都大学理学研究科、北里大学海洋生命科学部、中部大学応用生物学部の6大学の実習を実施した。公開実習航海では、乗船人数に限られるなか、本学の実習学生の乗船で定員一杯となる航海が多かったが、紀伊黒潮流域圏航海実習で、皇学館大学の学生1名が本学の学生とともに所定の実習を行って単位認定を受ける特別聴講学生として乗船した。

研究航海は、教育航海の実施で日程が確保しにくい状況が続いているが、6航海を実施した。乗船人数や調査海域に限られるなか、有意義な調査活動が実施できたと思う。

その他の航海については、台風避難航海が1航海であった。検査工事・一般修繕工事は、一般入札により令和4年12月26日から令和5年1月28日（工事期間12月27日～1月27日）まで大阪市西成区の株式会社ダイゾー木津川工場で実施した。竣工14年目の第2種中間検査（B）および一般修繕工事を行い、実習航海や研究航海に支障が出ないように注意して検査・整備工事を行った。約1ヵ月間の大阪市滞在であったが、保健管理センター確認のもと滞在中の注意事項を船内に掲示した上で、一層の意識を持って感染予防対策の徹底を乗組員に呼びかけた。

令和4年度の航海実績については、以下の表を参照していただきたい。

令和3年度 航海実績

実習航海

航海番号	種別	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
2201	公開	水産生物学実習①	4/6~4/8	3	8(3)	
2202	公開	水産生物学実習②	4/13~4/15	3	8(3)	
2204	学外	(単)名古屋大学大学院環境学研究科①	4/26~4/28	3	8(1)	名古屋大学8名
2205	学内	博士後期課程特別調査研究	5/10	1	14(4)	
2208	学外	(単)京都大学総合人間学部①	5/23~5/25	3	7(3)	京都大学7名 前泊も航海日数に含む
2209	学外	(単)京都大学総合人間学部②	5/26~5/27	2	7(2)	京都大学7名 前泊も航海日数に含む
2210	学内	海洋環境調査実習①	5/30~5/31	2	8(0)	
2211	学内	海洋環境調査実習②	6/3~6/4	2	8(4)	
2212	学内	海洋環境調査実習③	6/10~6/11	2	8(4)	
2215	公開	海洋生物資源調査実習(第1班)	7/7~7/8	2	8(2)	
2216	公開	海洋生物資源調査実習(第2班)	7/13~7/15	3	8(3)	
FSC	学内	FSC体験演習	7/20	1		三重大学生物資源学部1年生対象
2218	学外	(単)四日市大環境科学部海洋実習①	8/4~8/5	2	8(1)	四日市大学8名
2220	公開	海洋総合航海実習(第1班)	8/16~8/19	4	6(2)	
2221	公開	海洋総合航海実習(第2班)	8/23~8/26	4	6(3)	
2223	公開	海洋総合航海実習(第3班)	9/6~9/9	4	7(2)	
2224	公開	海洋総合航海実習(第4班)	9/13~9/16	4	6(3)	
FSC	学内	FSC体験演習	9/26~9/28	3		三重大学生物資源学部1年生対象
2226	学内	海洋環境調査実習④	10/6~10/7	2	8(0)	
2227	学内	海洋地球科学乗船実習(第1班)	10/11~10/12	2	8(0)	
2228	学内	海洋地球科学乗船実習(第2班)	10/13~10/14	2	8(0)	
2229	公開	紀伊黒潮流域航海実習(第1班)	10/18	1	14(2)	皇學館大学1名
2230	公開	紀伊黒潮流域航海実習(第2班)	10/20	1	13(7)	
2231	学内	海洋地球科学乗船実習(第3班)	10/25~10/26	2	7(6)	
2217	学外	(単)京都大学理学研究科	11/6~11/9	4	8(1)	京都大学7名 三重大学1名 前泊も航海日数に含んでいる
2234	学外	(単)名古屋大学大学院環境学研究科②	11/16~11/18	3	8(0)	名古屋大学8名
2235	学外	(単)四日市大環境科学部海洋実習②	11/24~11/25	2	6(1)	四日市大学6名
2237	学外	(単)北里大学海洋生命科学部「海洋実習」(第1班)	12/6~12/7	2	14(6)	北里大学14名
2238	学外	(単)北里大学海洋生命科学部「海洋実習」(第2班)	12/8~12/9	2	14(6)	北里大学14名
2240	学外	(単)中部大学応用生物学部環境生物学セミナー	2/8~2/10	3	4(1)	中部大学4名
2241	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第1班)	2/15~2/17	3	7(2)	
2242	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第2班)	2/20~2/22	3	7(2)	
2243	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第3班)	3/1~3/3	3	6(2)	
2244	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第4班)	3/6~3/8	3	7(2)	
2245	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第5班)	3/9~3/11	3	7(3)	
2246	学内	乗船実習および海洋観測航海実習(第6班)	3/15~3/17	3	7(2)	
小計				92	278(83)	

研究航海

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	主な研究目的
2203	研究航海（北里大三宅先生）	4/20～4/22	3	8（3）	熊野灘における深海性プランクトン類および深海性底生生物の採集。また、北里大学の選択科目の体験実習の一環とする。
2207	研究航海（宮崎先生）	5/16～5/20	5	7（3）	熊野灘においてIKMTと釣りによる深海魚をはじめとする深海生物の採集を行う。
2213	研究航海（立花先生）	6/15～6/24	10	8（2）	梅雨強化に及ぼす海洋の影響に関する3隻同時集中観測。
2214	研究航海（広大大塚先生と本船教員）	6/29～7/1	3	8（1）	深海性プランクトンの採集・CTDによる水理環境調査。
2236	研究航海（木村先生）	11/29～12/2	4	8（2）	深海性のマクロベントスおよび近底層魚類とその寄生生物の採集。底生生物層相とその多様性の解明。
2239	研究航海（本船教員と京都大教員）	12/13～12/16	4	8（2）	底生性動物（貝類、甲殻類、棘皮動物、多毛類など）の分類に関する研究。海洋生物学の採集方法の習得。
小計			29	45（13）	

その他（一般公開，避難，ドック）

航海番号	航海名	期間	日数	乗船者数 (女性)	備考
整備	夏期集中整備期間	7/16～7/24	9		台風14号接近に伴う避難航海
台風	台風避難航海	9/18～9/20	3		
ドック	第二種中間検査（B）工事及び一般修繕工事	12/26～1/28	34		ダイゾー（株）木津川工場
小計			46	0	
合計			167	323（96）	

2. 令和4年度 全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会報告

（1）はじめに

全国水産・海洋系学部等協議会練習船等分科会（以下、分科会とする）とは、練習船を持つ水産・海洋系大学（校）を会員として組織され、練習船等の運営並びに教育研究調査などに関する諸問題を協議し、練習船における教育研究調査の充実発展を図るとともに、練習船相互間の連絡を緊密にして管理運営の改善を促進することを目的として、年に一回、分科会に組織する各大学（校）の持ち回りで開催されるものであ

る。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から北海道大学が当番校となりオンライン形式で実施された。日程は、令和5年3月24日（金）で、各大学（校）から練習船の船長や機関長をはじめ、練習船乗組員、関係教職員などが参加して行われた。本船からは前川船長、山本機関長、中村一航士、奥村二航士、高野三航士、附属教育研究施設事務室からは野呂事務室長、練習船担当土性専門員が参加した。

はじめに北海道大学水産学部都木学部長より挨拶があった。議長に同大学おしよ丸亀井船長が選出され、続けて各大学（校）代表者の挨拶

撝の後、議事が進行された。来年度の分科会については審議事項の議題3のとおり、鹿児島大学が当番校となり開催されることとなった。分科会終了後の情報交換会は実施されなかった。審議事項や報告事項については以下の通りである。

(2) 分科会議事録

日 時：令和5年3月24日（金）14:30～17:00

会 場：オンライン会議

当番校：北海道大学

参加大学（校）：北海道大学，東京海洋大学，
三重大学，広島大学，鹿児島
大学，長崎大学，水産大学校

【審議事項】

議題1. 物価高騰に対する各校の対応について （北海道大学）

北海道大学から物価高騰に対する各校の対応についての情報交換の希望があり，各大学から様々な対応策が挙げられた。

議題2. 令和4年度における新型コロナウイルス感染症に対する対応について（北海道大学）

北海道大学から令和4年度における新型コロナウイルス感染症に対する対応や今後の対応についての情報交換が求められ，各大学から情報が提供された。

議題3. 次回当番校及び役員について（北海道大学）

今年度の当番校である北海道大学から提案があり，以下のとおり次回当番校，幹事が決定した。
次回当番校：鹿児島大学

開催時期：令和5年12月27日（水）

会 長：鹿児島大学 幅野船長（かごしま丸）

副 会 長：鹿児島大学 東船長（南星丸）

副 会 長：三重大学 前川船長（勢水丸）

（各校幹事）

北海道大学 坂岡船長（うしお丸）

東京海洋大学 宮崎船長（神鷹丸）

三重大学 前川船長（勢水丸）

広島大学 中口船長（豊潮丸）

水産大学校 富賀見船長（天鷹丸）

長崎大学 青島船長（鶴洋丸）

鹿児島大学 幅野船長（かごしま丸）

議題4. その他

特になし

その後，報告事項に移った。

【報告事項】

報告1. 第21回全国水産・海洋系学部等協議会 について（東京海洋大学）

東京海洋大学宮崎船長より，令和4年7月27日～8月5日開催（メール審議）第21回全国水産・海洋系学部等協議会について，報告があった。

報告2. 新うしお丸（262t）代船建造記録と 現状（北海道大学）

北海道大学坂岡船長より就航からこれまでに発生した不具合等の説明がうしお丸坂岡船長から行われた。

その他，報告事項終了後に鹿児島大学幅野船長と北海道大学坂岡船長より追加の報告があった。

報告1. 救助艇の使用について（鹿児島大学）

鹿児島大学幅野船長より救助艇を利用する際の情報提供があった。

報告2. 北朝鮮のミサイル発射と着弾地点の周 辺の操業状況について（北海道大学）

北海道大学坂岡船長よりミサイル着弾地点300キロ圏内に8隻（うち5隻は練習船）の操業中の日本船籍の漁船がいたとのことで注意が

必要であるとの情報提供があった。

3. その他

(1) 練習船運営委員会および共同利用拠点支援室会議について

昨年度は以下の日程で運営委員会および支援室会議が実施され、練習船運営や教育関係共同利用拠点としての取り組みになどについて審議・報告がなされた。

【練習船運営委員会】

- 第1回 7月28日（Zoom会議）
- 第2回 11月15－18日（メール会議）
- 第3回 11月18日（Zoom会議）
- 第4回 12月16－19日（メール会議）
- 第5回 1月5－12日（メール会議）
- 第6回 1月30日－2月2日（メール会議）
- 第7回 3月6－8日（メール会議）
- 第8回 3月10－13日（メール会議）

【教育関係共同利用拠点支援室会議】

- 第1回 9月12日（Zoom会議）

(2) 情報発信について

既存の勢水丸ホームページの更新に加えて、公式フェイスブックページを可能な限り更新し、情報発信を積極的に行うように心がけた。

(<https://www.facebook.com/seisumaru/>)

(3) 観測データ提供について

外洋域航走中の流向流速などの観測データを第四管区海上保安本部海洋情報部 海洋調査課海象担当、三重県水産研究所、日本水路協会に提供しているが、令和4年度は4航海分のデータ提供を行うことができた。これに関してはこれからも各機関に提供できるように続けていきたいと思う。

これに加えて、昨年から検討している気象庁

に気象観測データを提供する準備について、気象データ送信専用のソフトウェアを導入し、送信用メールアドレスの入手を行うなど準備を進めている。